

## たばこの購入場所は「コンビニ」が基本、発がん性物質の脅威はあっても「禁煙」は別問題？ - 喫煙者に聞いた「たばこに関するアンケート」

インターネット調査会社の株式会社マーシュ(東京都世田谷区駒沢、代表:町田正一)は、2011年9月の自主調査「たばこに関する調査」でたばこを「吸う」と回答した喫煙者を対象に、インターネット調査で追跡調査を行い、220人から回答を得ました。実査期間: 2011年11月22日～11月24日

### 〔調査結果概要〕

今回は、9月に実施したミニリサーチ「たばこに関する調査」の追跡調査として実施した。

回答者は、前回調査で喫煙と回答した220名。

この220名のうち、この2ヶ月以内に禁煙をした人が6名。

前回調査で、6名のうち4名は禁煙意向を尋ねた質問で

「たばこをやめたいと思う(計)」と回答していた。

また、この220名全体で見ても、6割以上の方が禁煙意向を表していた。



普段、たばこを購入する場所として最も多かったのは「コンビニエンスストア」で79.0%。

また、コンビニエンスストアで購入する場合、たばこの他に「ついで買いをする(計)」と回答する人が78.1%と、8割近くの方がたばこプラスαの買い物をしていることがわかった。

コンビニエンスストアでの購入が多いことに比例するのか、タスポを持っていないと回答する人が56.5%と半数以上を占めていた。

たばこの煙に含まれる成分の1つに「ポロニウム210」というのがあり、これは発がん性の高い物質になる。

また、体内にたまると高濃度になり、局部的に放射線量が集中することになると言われている。

この成分の特徴を認知してもらった上で、たばこに対しての脅威を尋ねたところ、「脅威に感じている(計)」人は57.0%。

先の質問で、原子力発電事故で、放射線量や放射性物質に「脅威を感じている(計)」52.8%の回答を上回る結果となった。

しかしながら、これが禁煙に直接的には結びつかないようだ。

この説明を読んだ後にたばこの本数の変化について尋ねたところ、

「禁煙する」と回答した人は僅かに5.1%。「吸う本数を減らす」と回答した人は36.4%。

「本数は変わらない」と回答した人がこれらを上回り、57.9%と半数以上を占めた。



最後の設問では、「喫煙で肩身の狭い思いをした体験談」を自由回答で尋ねた。

普段、他の人にはぶつけられない不満や、たばこに対する思いが多く寄せられた。

調査結果URL <http://www.marsh-research.co.jp/examine/ex2311.html>

**調査名:** たばこに関するアンケート

**調査対象者:** 2011年9月実施の「たばこに関する調査」で  
たばこを「吸う」と回答した人

**サンプル数:** 220s

**割付:** 性別年代均等

**実査期間:** 2011年11月22日～11月24日

**調査方法:** インターネット調査

**調査機関:** 株式会社マーシュ

アンケートモニターサイト「D STYLE WEB」の

登録会員を対象に実施

【D STYLE WEB】

<http://www.dstyleweb.com/>

**調査項目:**

- 喫煙有無
- たばこの購入場所
- タスポの利用状況
- たばこの銘柄誤認経験
- コンビニエンスストアでのついで買いについて
- パッケージのタール表記について
- 放射線量/放射性物質に対する意識状況
- 「ポロニウム210」の認知状況
- 「ポロニウム210」に対する意識状況
- 「ポロニウム210」認知後のたばこの喫煙量
- 喫煙者の肩身が狭いと思った体験談や  
その他たばこについて考えること